

大和公民館だより

発行者 大和公民館

〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1693-1

館長(有賀)  主事(三枝) 

◆ 今月の公民館事業は……

相変わらず新型コロナウイルスの影響が続き、いろいろな事業が中止や延期となっていますが、今月予定していた「新春かるた取り大会」は感染防止のため中止とします。

また、毎年2月に開催されていた甲州市生涯学習推進大会のうち「童謡フェスティバル」は中止となりました。

現在、公民館を利用して「ヨガ教室」、「子育てサロン」、「のびのびチビッ子広場」は感染防止対策をして、今までの活動が再開されています。詳しくは主催者にご確認ください。

なお、団体等の会議での利用は可能です。ご利用ください。

◆ クラウンドゴルフを楽しみませんか

グラウンドゴルフは誰でも気軽にできるスポーツです。大和地区では4月から11月まで、毎週木曜日に大和スポーツ公園で練習をしています。22人のメンバーがプレーを楽しむとともに健康づくりの一環として活動しています。あなたも一緒にグラウンドゴルフを楽しみませんか。お問い合わせは、有賀文雄（☎ [REDACTED]）まで。

篠子峠の西の麓の伝説・民話

「瘤取り」(こぶとり)

瘤取り沢（土地の人はこぶとちと呼んでいる。）、この沢の奥の方に梨げいりと鬼出し（おんだし）と云うところがある。この梨げいりには、昔、山梨の大木が何本かあって、春には白い花が咲き、秋にはそれはそれは甘い実が枝も折れんばかりになった。麓の人は、この梨を食べると若返ると言つて、毎年秋になるのを待つて梨を採りに行った。この噂が近郷近在まで広がり、遠くからも採りに来る者もいた。

ところがいつの頃からか、鬼が出て驚かし邪魔をするので、梨を探ることが出来ず、梨なしで空籠を提げて帰ってくるようになった。麓の人は鬼の出る辺りを鬼出しと呼ぶよう（裏面へ続く）

になった。

その頃、麓には頬に大きな瘤があり顔の醜い男がいた。この男は梨をそのままにしておくのはもったいないと「俺が採りに行く」と言い出した。「俺が行けば鬼どもは俺を見てびっくりして、鬼のほうが逃げ出すだろう」と男は梨げいりを目指して登って行った。男は、顔は醜いが心は優しく、声が良く唄が上手い。それに踊りは天下一品大変上手であった。

鬼出しまで登って一休みした。もう、鬼さん出るはずと様子をうかがったが出てこない。少し様子がおかしいと耳を澄ましていると、岩陰の方から何やらがやがやするのでおつかなびっくり近づくと、驚いたことに洞穴の中で鬼どもは酒盛りをして、唄ったり踊ったりしている。男は、つい、つられて踊りながら穴の中へ入って行った。これを見た鬼どもは、あまり上手なので驚きもっと踊れ、もっと唄えと囁し立て一緒になって踊り、唄った。何刻かたって男は鬼の親分に帰ると告げ、「実は梨げいりの梨を探りに来た」のだと話した。鬼の親分は「お易いことだ。今朝、採ったばかりの梨があるので持つていけ」と籠にいっぱい梨を入れてくれた。ご馳走になつたり、土産をもらつたりしたので、お礼を言って帰ろうとしたところ、必ずまた来るようになると親分が言った。「その証にお前の顔の大事な瘤を置いていけ」と、瘤を取ってしまった。

醜い男は、顔がすっかり綺麗になり、梨の土産はもらうし、足が地につかぬほど喜んで麓に帰ってきた。それから、麓の人達は梨で若返るのでその土地を「梨げいり」と云うようになつた。それでこの沢を「瘤取り沢」、その後に訛つて「瘤とち沢」と呼んでいる。